

お客さまの信頼にお答える

医学協会の品質

健診機関として医学協会がもっとも腐心しているのは品質（およびマネジメント）です。高精度の検査機器はもちろんのこと、専任スタッフの育成、さらには健診時を快適にすごしていただくための接客マナーの習得と、事業全般にわたっています。それら「信頼のシステム」構築の取り組みをご紹介します。

個人のスキル向上

第1段階として

施設・設備を動かす「マンパワー」

21世紀に入り、急速に進歩をとげたのがデジタル技術。医療面では、デジタル化にともなう機器の高精度化のみならず、医学そのものの進歩により、専門分野に特化した高度な知識と経験をもつプロの育成が急務となりました。

健診・検診においても、たとえ充実した検査機器（健診施設や検診車）を備えていたとしても、それらを十分に使いこなすことのできる優秀なスタッフがいなければ、なんの意味もありません。

健診・検診現場で活躍する有資格者たち

たとえば、画像診断においては、最新の撮影装置さえあればよいわけではなく、撮る技術（撮影）と読む技術（読影）が精度を左右します。

当会の胃がん検診では、「日本消化器がん検診学会」認定の胃がん検診専門技師が撮影を実施し、同学会の認定医が読影を行っています。また、当会では、放射線専門医による症例検討会を定期的に行い、スキルアップを目指しています。

そして、超音波検査では、「日本超音波医学会」が認定する超音波検査士を有した技師が、対応します。この資格は、臓器により6領域（消化器・循環器・泌尿器など）に分かれており、当会医師の熱心な指導・勉強により、複数の資格を取得する検査士を多く輩出しています。

セミナーの主催、参加にも積極的で、ハンズオン（教育実習・実技）のスキルアップにも余念がありません。

他にも、マンモグラフィ撮影認定技師（マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定）、肺がんCT検診認定技師（日本CT検診学会）を有した技師が対応しており、各種団体や受診者のみなさまから「安

心」と「信頼」をいただいております。

各専門技師とも、一定の期間ごとに更新審査がおこなわれ、その能力を厳しくチェックされます。不適格と判断されれば、資格は剥奪されます。資格の維持・向上のため、学会や研修会への参加は不可

チームによるボトムアップ

第2段階として

「品質」を向上させるための研修会

医学協会では、日常業務における実地教育はもとより、社内外の特別研修を実施しています。社内研修は「職種別研修」と「階層別研修」があり、2つの研修を交互に毎年会場を借りて開催。

職種別研修は、健診部門、一般事務に大別され、職務上必要な専門知識、技能の修得、他施設との情報交換、発生したトラブル・クレームの再発防止など、職種全体のレベルアップを目的とします。

各職種ごとに専門講師を招聘しますが、健診部門では協会内外の専門医を講師として、最新の医療情報がレクチャーされます。

階層別研修は、部長クラス、課長クラス、係長クラスなどに分かれ、役職に求められる技能を修得することを目的とします。管理職としてリーダーシップ、指導者としてのコーチングスキル、コミュニケーションスキルの修得および向上をめざしています。

他にも、職種ごとの勉強会は一年のうち適宜実施され、スキルアップに役立てています。

社外の研修会、講習会、学会への参加も積極的に奨励しており、それらで得た最新情報・知識は勉強会などで共有されています。

健診体制の見直し・改善を図る内部コミュニケーション

当会では、日常業務のなかでの改善点は随時、不適合報告書や情報カード（協会内外からの情報提供）などにより、検討・改善されています。改善委員

会で、各部門ごとに勉強会で最新の情報・知識を共有し、専門医の指導のもとで症例検討会も実施。

後ほど説明しますISO認証取得にしろ、施設の機能評価認定にしろ、当会のマンパワーの賜物といえるでしょう。

会・業務検討審査会において、健診の待ち時間の短縮化など、すべての施設にとって有益であると判断されたものは、マニュアル化され、水平展開（全施設で実施）されるケースもあります。

技術部門間の情報伝達は、専門医を委員長とする検討委員会でおこなわれ、健診内容、事後措置（アフターケア）などについて決定しています。

すべてはお客さまに満足いただけるサービス（品質）提供のため

ISO（国際標準化機構）が最終目標に掲げるものは「顧客満足」ですが、当会のような健診事業においても、健診内容の充実はもちろんのこと、健診施設の快適性、お客さまに好印象を与える職員のビジネスマナーなども含めた、トータルなサービスが「品質」に含まれる時代になりました。

その「品質」を水準以上に堅持し、向上させるには、職員ひとりひとりが「プロ」の自覚をもち、仕事に対する矜持、モチベーション（自己啓発）、どんな事態にも柔軟に対応できるキャリアの蓄積が必要になります。

どんなに優秀な人間でも、本人ひとりでは、その成長には限界があります。そのための教育・研修制度です。大量消費社会を経験した、私たち、ひとりひとりが例外なく、「品質」に対して厳しい判断基準をもつに至っています。

最高のサービスを提供するには、「お客さま」の目で自分を見つめ、実行することに尽きる、かと思われます。

◇撮影技師の認定資格

認定機関	認定内容
日本消化器がん検診学会	胃がん検診専門技師 39名 取得 (胃がん検診に従事する技師50名のうち)
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	マンモグラフィ撮影認定技師 25名 取得〈全員取得〉 (乳がん検診に従事する技師25名のうち)
日本超音波医学会	超音波検査士 30名 取得 (超音波検査に従事する技師45名のうち)
日本CT検診学会	肺がんCT検診認定技師 1名 取得

品質の証明（第三者評価）

第3段階として

ISO9001
(品質マネジメントシステム)
認証取得の目的

大衆社会の成熟にともない、健診機関も含めた医療機関も「利用者本位」の観点から事業内容の見直しを迫られました。つまり、健診事業も健康をサポートする「サービス産業」であり、いかに顧客ニーズに応えられるか、という大前提が求められたのです。

1997年(H.9)から始まった、各現場からのボトムアップを狙った「業務検討会」で、グループによる改善活動を推進してきましたが、グループ間格差が問題となっていました。

医学協会(健康診断業務・人間ドック業務・労働衛生教育業務)が一丸となった取り組みは、さながら新たな創設期を思わせるものがあり、ISOという国際規格を通じて、従来のやり方を見つめ直し、問題を改善し、トータルに「品質」を考える、またとない機会となりました。認証取得は1999年(H.11)。

検査能力の高さを
実証した臨床検査部

2007年(H.19)には、臨床検査部が健診機関としては国内初となるISO15189(検査能力)を取得。臨床検査部は、健診班が採取した検体(血液、尿)を測定し、各検査項目を数値化する、とても重要なセクションです。かりに検査能力が劣っていたり、品質管理がずさんであれば、受診者に正確な健康情報を提供できません。

ISOの認証は、当会のサービスや検査精度の「品質」を保証していただいた、ということになります。更新審査を重ねることで、その精度管理は格段に向上しており、個々のお客さまに高精度の健診結果をお届けします。

その他の
第三者評価認定施設

2002年(H.14)以前にも評価認定制度はありましたが、特に近年では、お客さまが、受診施設を選択する判断材料となる評価とその情報公開が求められる時代になってきています。

そのため、それ以後は(社)日本人間ドック学会/日本病院会をはじめとする専門機関が認定や指定を積極的におこなうようになりました。

当会でも、2005年(H.17)に岩室成人病検診センターが「優良二日ドック施設」に指定され、同じ年には、県内最大級の人間ドック施設であるブラーカ健康増進センターが県内初の「人間ドック・健診指定施設機能評価」の認定を受けました。

日本人間ドック学会/日本病院会が審査をおこなうこの機能評価は、人間ドック施設を擁する病院や健診施設を対象としたもので、健診体制のチェックと、同年4月1日から施行された個人情報保護法の「プライバシーの確保」などの受診者の目線にたった項目も重要なチェック項目になっています。

このような第三者評価のメリットは、客観的事実として認知され、受診者のみなさまから「安心」と「信頼」を得られる点です。

実績からみる「安心」と「信頼」

この「信頼のシステム」では、『個人のスキル向上』、『チームによるボトムアップ』そして『品質の証明(第三者評価)』の3段階で、当会の精度向上への取り組みを確認してきました。このような取り組みの成果の一つとして、当会では人間ドック健診のがん発見率を毎年公表しています。

全国平均を大きく上回る発見率は、3段階のシステムがスムーズに機能している結果といえます。

医学協会の品質を証明する
認定・認証と登録

認定/登録名称	認定機関	認定/登録施設	認定/登録年月
ISO9001(認証)	日本能率協会	社団法人 新潟県労働衛生医学協会	平11.11 平23.10(更新)
ISO15189	日本適合性認定協会	臨床検査部	平19.12 平23.12(更新)
登録教習機関 (特化シアルキル・石綿)	新潟労働局長	社団法人 新潟県労働衛生医学協会	昭48.3 平18.4(更新)
登録教習機関 (鉛・酸欠・有機・酸欠硫化)	新潟労働局長	社団法人 新潟県労働衛生医学協会	昭48.3 平21.3(更新)
労働者健康保持 増進事業サービス機関	中央労働災害防止協会	新潟健康増進センター	平2.5 平22.5(更新)
中小規模事業場健康づくり 事業(ステップアッププラン) 協力機関	中央労働災害防止協会	新潟健康増進センター	※平22.3
労災保険二次健康診断等 給付医療機関	中央労働災害防止協会	集団検診センター	平13.7 平16.6(更新)
団体安全衛生活動援助 事業に係る安全衛生 サービス機関(安全衛生教育)	中央労働災害防止協会	社団法人 新潟県労働衛生医学協会	平11.7 平21.4(更新)
団体安全衛生活動援助 事業に係る安全衛生 サービス機関(特殊健康診断)	中央労働災害防止協会	社団法人 新潟県労働衛生医学協会	※平23.3
労働衛生サービス機能 評価機構認定機関	労働衛生サービス 機能評価機構	新潟ウェルネス	平11.11 平24.6(更新)
優良総合健診施設	日本総合健診医学会	新潟健康増進センター	平23.4
人間ドック・ 健診指定施設機能評価	日本人間ドック学会/ 日本病院会	ブラーカ 健康増進センター	平17.4 平21.10(更新)
優良人間ドック・健診施設	日本人間ドック学会/ 日本病院会	ブラーカ 健康増進センター	平17.5 平21.10(更新)
優良二日ドック指定施設	日本人間ドック学会/ 日本病院会	岩室成人病検診 センター	平17.4 平23.4(更新)
マンモグラフィ検診 施設画像認定施設	マンモグラフィ検診 精度管理中央委員会	新潟ウェルネス	平18.1 平21.9(更新)
		新潟プレスト検診センター	平19.11 平23.11(更新)
日本乳癌学会認定施設	日本乳癌学会	社団法人 新潟県労働衛生医学協会	平20.1 平24.1(更新)

バックナンバー
在庫はございません。
悪しからず!!

このページに掲載されているTrim誌は、すでに保管用となっ
ている在庫以外はありません。大変、残念ですが、お申し出が
あっても差し上げることができませんので、ご了承ください。

Trimの50年

第2回

1990年(平成2年)5月発行の第119号から雑誌型にリニューアルし、紙名もトリム(Trim)にチ
ェンジしましたが、以後22年間で、Trim誌はさまざまな試行錯誤をくり返しなが、現在のスタ
イルに至っています。

まず、Trim誌の顔である、表紙。写真だけではなく、イラストを使った時代もありました。それぞ
れの時代の発する空気を敏感にキャッチし、積極的に受け入れ、変化を楽しむ。

これは、Trim誌の編集に関わるすべての人たちの醍醐味です。

8種類のTrimのロゴ(logotype)をご覧ください。いろんな表情があって、おもしろいね、と愛
読者のみなさまは思ってください。

まだまだ、これからもTrim誌は成長し続けます。どうぞ、引き続きお読みください。



No.119~162
(年6回発行)



No.163~171
(年6回発行)



No.172~175
(年4回発行にチェンジ)



No.176~179
(ページ28pから36pへ)



No.180~187
(横読み型にチェンジ)



No.188~191
(年4回発行)



No.192~195
(ページ36pから40p以上へ)



No.196~現在まで
(年4回発行)

1990/11・12月/No.122

7年間、43冊の表紙を飾ったロゴ。



1994/5・6月/No.143

ページ数all28p(カラー20p、モノクロ8pで構成)。



1992/9・10月/No.133

創立30周年記念特別号(36p)



1996/7・8月/No.156

表紙の写真は、特集に合わせてセレクト。



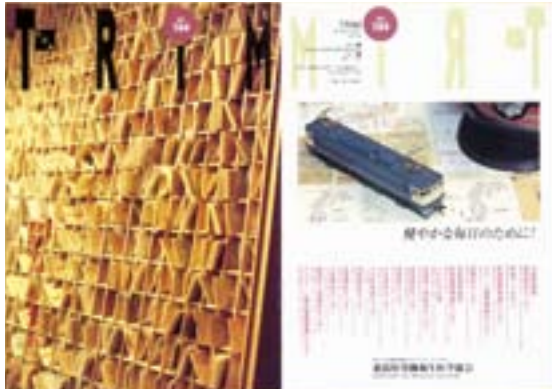
1997/9・10月/No.163

黒でスタイリッシュなロゴ。



1997/11・12月/No.164

ページ数all28p(カラー20p、モノクロ8pで構成)。



1999/夏/No.173

ひらがなのメルヘンチックなロゴ。



1999/秋/No.174

年4回発行、allカラーにリニューアル。



2000/夏/No.177

ハードタイプの英字ロゴ。



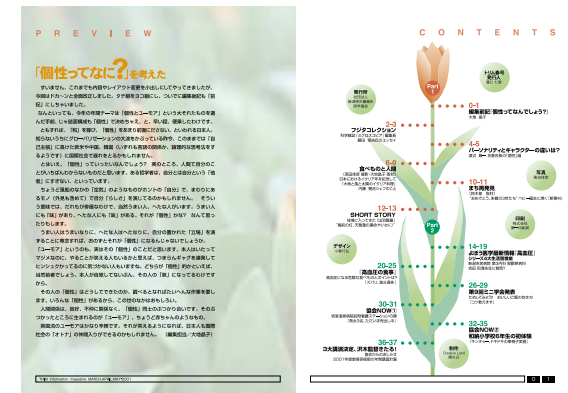
2000/秋/No.178

ページ数all36p、表紙のテーマは「青空」。



2001/春/No.180

手書き文字の元気いっぱいロゴ。



2001/夏/No.181

左つづり、横読み型にリニューアル。

